

心がホツとするような舞台にしたいです！



演劇ファミリー Myu

かどくら しおり
門倉 栞 さん

Myu では広報部としても活躍する
門倉さん (Twitter: @1_cio_ri_cha)

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ
No.162

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。昨年は見えないうイルスに悩むことが多い一年でした。今年も先を急がず一歩一歩物事を進めることが大切な年だそうです。安心して暮らせる日が戻ってくるのを祈っています。今回は、みの〜れ住民劇団演劇ファミリー Myu のメンバーで石岡市にお住いの門倉栞さん取材します。

演劇ファミリー Myu に入ってきたきっかけを聞いてみると、2011年、お父さんが経営する美容室で当時働いていたスツッさんが、小学校5年生の私に公演のチラシを持ってきてくれました。さっそく、みの〜れに電話をすると、ワークシヨップ（はっぴい♡ぷろじえくと）があることを聞いて参加。

「もともと入団する気で参加しました。その時、たまたま幼稚園の同級生が Myu に参加していて久々に会えたのが嬉しかったです。家からみの〜れまで車で15分くらいの所だから参加できると思いました。でも、公演は震災で延期になってしまいました」と懐かしそうに話してくれました。

大学2年生の門倉さんはコロナ禍でオンライン授業を続けています。「オンライン授業じゃなかったら、もしかしたら3月公演の、『わが家の天ぶら』に参加していなかったかも知れません。インドア派で家でじっと

していたこともあり、運動をしたいなと思っていたので、今回、公演ができることを知って参加できて良かったです」とにっこり。

今回、Myu に戻って来て感じたことは、子ども達が増えていたことが新鮮だったと話し、「Myu を離れる前に一緒に舞台上に立っていた子たちが、『一緒にやろうよ』って声をかけてくれて戻って来てよかったなと思った」と笑顔で話してくれました。

「幼稚園の年少の時、発表会のシンデレラ役に選ばれました。その頃は、先生が役を決めていたので、『やってー！』って言われれば、『はい』って引き受けて感じですね。その頃から歌や踊りが大好きだったと母が教えてくれました」と話す門倉さんは、今回はダンサーのポジションです。

『わが家の天ぶら』は13年前の作品を現代風にリメイクしたものです。「13年前と少し変わっ

（藤田佐知子）